

1.調査目的等

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2.学校ごとの指標

【短期指標】

全国学力・学習状況調査の文科省標準化得点で国語(100)算数(100)以上

3.指標に向けての取組

(1) 授業力の向上と授業改善

- 1単位時間の中に、「かく活動」を位置付けた授業づくりの徹底
- 児童が書いたものを、学習の話し合い等に生かし、主体的・協働的につながる授業づくり

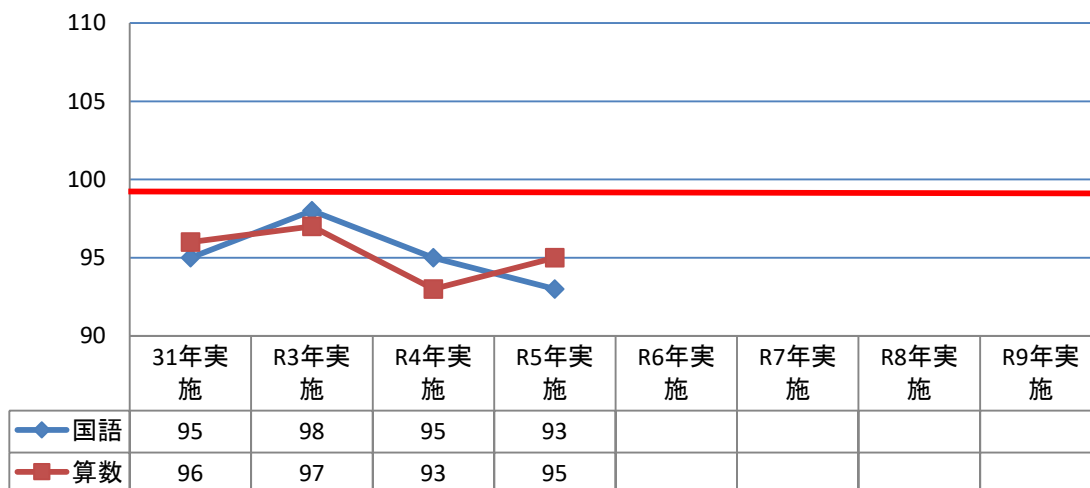
(2) 家庭学習の目的、内容の見直し

- 家庭学習の時間の分析と、その結果の共有
- ドリル等を活用した、家庭での反復学習の実施

4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国語	算数
本校	93	95
嘉麻市	99	98
全国	100	100

推移



5.各学校における分析

【国語】適切なものを選択する設問に対する回答率、正答率は比較的高い数値を表しているが、「書くこと」「読むこと」に対して課題を残し、文章の全体、要点をとらえて記述する設問について、無回答率が高くなっている。

【算数】「測定」や「図形」の名称に関する設問等は回答率・正答率ともに比較的高く、全国平均を上回るものも見られた。回答についての説明を書く設問では無回答が目立ち、選択した理由を記述する設問では無回答はなかったものの、正答を導く説明には至らなかった。

【要因】

- ①本を読む時間の設定が不足している。設問の内容を読み取れず、書き表すことが困難。
- ②思考する時間の中で、偏りなく話し合える環境を十分に確保できていない。
- ③「かく活動」を通した、自分の考えを伝える力を十分つけきれていない。

6.各学校における今後の取組

★教員の指導力向上と授業改善

- ①学習段階(問いづくり・思考づくり・価値づくり)を視点に、指導と評価の一体化した授業を実施
- ②「かく活動」を位置付け、あらゆる場面での意見交流等に生かす、授業展開の工夫改善
- ③AIDリルを積極的に取り入れた授業形態、家庭学習での活用で学習の反復・補充を図る。
- ④国語科を主とした音読指導の充実と、読書習慣を目指し、週末の家庭学習課題に読書を取り入れ、「読む力」の向上をめざす。
- ⑤学習の定着度を單元ごとに分析し、学力向上委員会と担任が連携し、習熟度別指導の工夫改善を図る。
- ⑥一週間のうちに、一定時間を話し合い活動に割り当てた授業構成を展開する。

7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。そのために、指導主事を派遣して校内研修で授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「授業チェックリスト」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、AIDリルを活用した個に応じた家庭学習課題の推進を図る。

また、個に応じた学習課題の提示を進める各学校の取組を交流する場を設定する。

◆学力向上検証委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方、ICTの利活用について指導する。